

天文台発 ぽらりす

≪2026年9月発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します≫



欠けていく金星

金星に「満ち欠け」があることをご存じですか？ 今年の春ごろから、日没後の西の空に、ひととき明るく輝く金星をご覧になった方もいらっしゃると思います。

望遠鏡で金星をご覧になった方から、「月ですか？」と聞かれることがあります。それもそのはず。金星には、月とそっくりの「満ち欠け」があるのです。金星も月と同じように、太陽の光を反射して輝いています。地球より太陽に近い軌道をまわっているため、地球から見ると、太陽に照らされた部分が時期によって変化していきます。

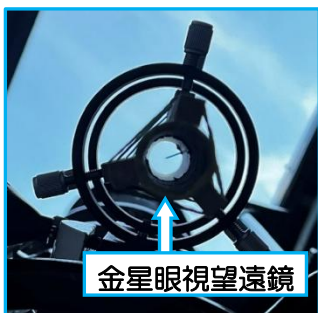
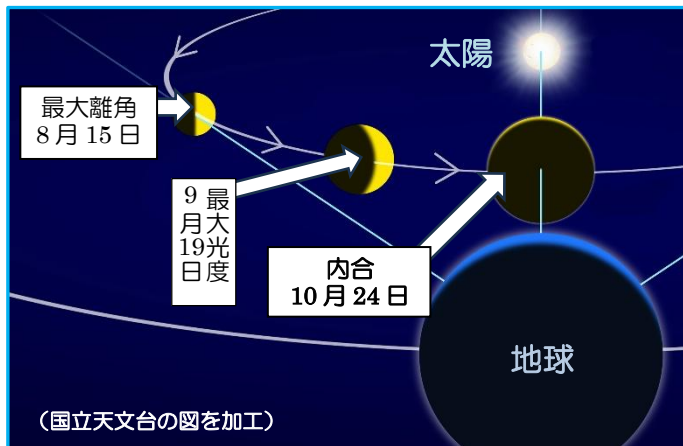
8月15日に、金星が太陽から最も離れて見える「最大離角」を迎え、望遠鏡では半月のような姿を見ることができました。これから金星は、どんどん細くなっていきます。一方で、金星が地球に近づいていくため、金星はだんだん大きく見えるようになります。9月19日には「最大光度」となり、マイナス4.8等という非常に明るい姿を見せるため、日中の空の中に見つけられるようになります。

現在天文台では、日中に青空の中の金星を肉眼で見つけやすくするため、「金星眼視望遠鏡」を用意しています。“望遠鏡”と呼んでいますがレンズの付いていない紙の筒です。8月下旬の段階では、肉眼で金星を確認できたのはごく一部の方のみですが、これから確認できる人が増えていくことを期待しています。

そして10月24日、金星は「内合（ないごう）」を迎えます。このころには太陽に非常に近づき、糸のように細い姿になります。太陽の光が望遠鏡を通して目に入ると大変危険ですので、過去の内合の頃には

望遠鏡に特製のフードを取り付けて観察しました。今回の内合前後の観察については現時点で未定ですが、安全にできたとしても金星の高度が低いため、天文台での観察は樹木の陰に隠れない午前中がおすすめです。

9月から10月にかけて、日に日に姿を変えていく金星を観察してみてください。（Aurora）



☆9月の夜間公開(予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

11日(金)～13日(日) 20:00～22:00 土星・夏～秋の星座

25日(金) 20:00～22:00 中秋の名月・土星

26日(土)～27日(日) 20:00～22:00 月・土星・夏～秋の星座

休台日は7日(月)、14日(月)、24日(木)、28日(月)です。